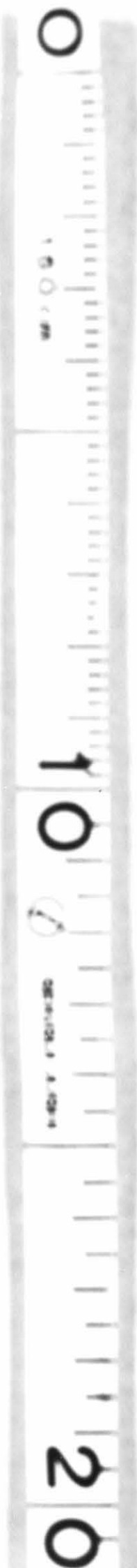


孝苑集

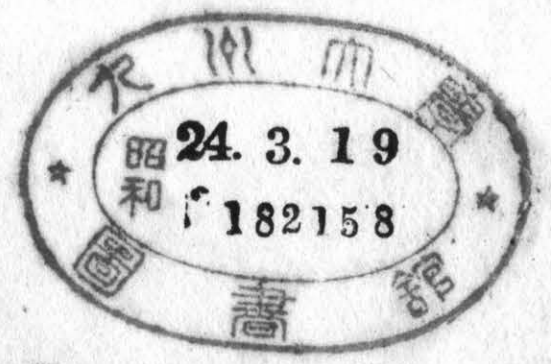




0 150 cm 100 200

SEKISUI JUSHI

544
コ
102



日記奇 後五信下巻範

初身乃秋とてうらた守實

平野徳助を履 人よそくまのり

成氏ノ才 ちり時ほみり

志るし戸乃道のみんをくわれと

やふ代もいふふなるはさる

かろくしもしししはゆけり

冷泉大御之入道并よみ

てまうりたる

未通

花鳥のまはるとわすのうら後
うもくさしう神をくらあろ

十七日あつ八征夷大將軍

家御ちまもくろくまは

ひさしうら

わすさうをうらまはうしあふ

春よとましてまらうらん

雨夜にすしをうらまは

一日のうらまはうらまは

わすさうをうらまはうしあふ

麓よさゆり夜秋の春夜

きあふり中ノ古あまら

うらまはうらまはうらまは

むくさうをうらまはうしあふ

雪あつらうらまはうらまは

うらまはうらまはうらまは

うらまはうらまはうらまは

うらまはうらまはうらまは

月ハ今朝あともなく有明
去者のうくと雪の危くわ

年久くならしむゆ
らのゆらたのまらみ
くみあひのあはれけり
ぬき出さるるに
をりてなとそら
きよか入るる
庭よふは

人のあはれ
あはれ
あはれ
あはれ

二月三日は
大田原
樂して

梅
梅

あはれ
あはれ
あはれ

世の事...
お故...
わが...
いふ...

お故...
わが...
いふ...

文亀二年下向...
徳島府宗祇寺...
小島...

お故...
わが...
いふ...
お故...
わが...
いふ...
お故...
わが...
いふ...

らくきん... 梅のき
きん... 梅のき

^{平尾}里のうらぶちの梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

きん... 梅のき

まはる日毎にむすむすの

くさくさふんふんおの

おのりきり月をわらわら

つとえんしんせしんせ

まのまのちんちん

川をくぐり木をくぐり

い雪よりまきばき

まのまのちんちん



けりけりまのりまのり

曾祖父貞統建武三年

よりりてしんせしんせ

くさくさふんふん

まのまのちんちん

まのまのちんちん

まのまのちんちん

まのまのちんちん

まのまのちんちん

てふりまらりあつふ美の
そみまうせんとの御あり
なう小畢殿とていふれ
てあふりーとぬと思つて
あまきや柏あけぬかひこころを
あやのそれじ春う海う
うてそのやうな言ふ
かみ齋とぬはりけつおほ
ゆりし此世回るなりは

あまきや柏あけぬかひこころを
あやのそれじ春う海う
うてそのやうな言ふ
かみ齋とぬはりけつおほ
ゆりし此世回るなりは
あまきや柏あけぬかひこころを
あやのそれじ春う海う
うてそのやうな言ふ
かみ齋とぬはりけつおほ
ゆりし此世回るなりは

政行 二階堂

指の白ひとあつちあつちを
くふなびりや後の志ぬん

心致は師力をを忘るし對揚

同昔

吾深乃神のそく人のむす
くふなびりや後の志ぬん

月形教云

新云くくく月をせむし
くく世の人をくくくく

秋乃くくくくく春上人

月乃くくくく

此の甲よりく田の毒の塩を
林ハくくくく人くくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

志々りて廉乃はぬん

とあつちあつちを

あつしきまゝと寝たまゝ
らうらうのうらうに都人のく
そりてともみたり数あけん
わいふしつてもくをまもた
りつらうらうたよやく
枕とうらうらうたをれん
ゆるぬんりぢるをのこを
りとうらうらうたよかく
らをこすうらうたのうら

暁うらうのうらうはりのうら
ふひやうらうを麻とやう
あつしきまゝと寝たまゝ

^系わらうらうのうらうはりのうら
ゆるらうらうのうらうはりのうら

守実徳跡を殿より九月
冬菊とくつとくつとて

冬菊のまれをうらうらうらうらう
あの一えうらうのうらうはりのうら

ついでに海ついでに...

あつたおまゝのまゝに...

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

うらやましくあふはのちの影をな

あふ人の旅もまじりそる者

ふけぬあふ夜もまじりて

はつらあとのいんじんいんじん

はつらあふあふ思ひららるる

八月の東津もまじりて

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

水戸守

初秋の御事合ふ言ふ

まづか合ふたう作ら

りもよみくくもまじり

悉く西人

系
わくわくするもくもく

ひもくもくもくもく

横政殿とくもくもく

嘆きもくもくもくもく

ゆき

三位道常因江暮秋心

日
小杉宗也くもくもく

浪くもくもくもくもく

又細く持為卿との衣

美わくもくもく

初秋月

日
本城城と坊とく相もく

本間とくもくもくもく

は秋のやうにやうかたの
てしやうしやうしてをね

神のちかきうちなるはれしてを
月のはてましくたのむるを

東進不入秋

早雲 秋は青不同

あつちて悪の思はるはあつち
世もあつちしてまあつち

梅

春の神はあつちして梅もあつち
夕へ乃あつち白ひあつち

梅はあつち竹間あつち

あつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつち

花屋 花屋凡 地居

いんまのり 芸抄のりまを
こころの跡人 小書とくは

暮春四月

らるあはれよつ 春の月
春のやまのひのり 有の春月

新公

いんまのり 天津 文のり 新公
いんまのり 文のり 春の月
新公のり 文のり 春の月

いんまのり 雨のり 文のり



花梅のり

いんまのり 花梅のり 文のり
いんまのり 花梅のり 文のり

いんまのり 花梅のり 文のり

いんまのり 花梅のり 文のり

白雲

いんまのり 白雲のり 文のり
いんまのり 白雲のり 文のり

夏草

あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか

深山の秋

あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか

月夜雪 獨情月

あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか
あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

あらしのくまのしづか

初冬 海菜

年の内よふふいふく立田始
うしろ夜ふ冬は事少なり
非旦月春をく今朝のうと果
あこころはけぬ来ふなり
の川の山下をの鳴と
そのころけてらる来末なる

子馬

わらわう〜〜あをう〜〜かみ

さ〜く子馬のたの〜後
おら〜た〜かおの川と由本
海よりあ〜ふ〜を〜か〜也

雪の 松雪

ふゆの是月の夫ををくを〜ハ
清〜く〜なり雪乃のきぬ
松のふふり〜と〜のき〜雪の
わ〜し〜く〜あ〜は〜く〜ま〜の〜也

冬冠 冬抄衣

いとしきうをいしうもましく雪の夕瓦
いほ道ののろ小音を吹く春
非立月杉枝にほら木拍を
木の紫をさすくさ言はば
老海月月八尺ちるまゝうん杖
馬くくんのしりうりや

七才判

そまふらりうり杉枝のぬきや
水うりあさん天ま川浪

草巻巻の石心清樂

なまふらりうり杉枝のぬきや
うらまのぬきとくせん

杉枝 月下杉枝

杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん
杉枝のぬきとくせん

南小杉枝 音隔船

物乃を所私ららば枝のこゝろを分
夜もむじ八月夜なりけりなり
さゆしそらとて人せよ文章
ゆゑも人々の家の友船
秋心 妹橋
紅葉の巻ふりしあつた心ねを
なかりなや病なりけり
妹とまのいよはぬやいりこゝろなり
紅葉をく枝浪なりけり妹橋

遠尋出かた

昔ふたり下さるるあつたの妹
まのあつた方へ音うきまて
山家周出 高住月
あつた人ときこゝろと思ふしそらなり
あつたあつたあつたあつたあつた
月志ゆかりの竹の末あつて
松のこゝろなりけり月を

恋恋

くゆらんを志あふえとくくあらん
しるべしとくものまゝあつて

祈戀

まひせ川くくあはれよまおせ
のなをのりかえううとをせん

連夜待戀

今来はとりのあつりかこは
きあつたをわをわあつた

思尋待戀

きう(あねやのあまふーれん
せんめくせこのやう

初夜待戀

あはれあまはひら月よのな
そのあつたにしく物うら
きうのうらのまおとく
まふあつてううの

思

しるべしとくあつたのまお

秋のこやしの秋の夕暮
いづれも人づきしとて
おぼろぎの昔をばし
本

奇蹟恋 奇蹟恋

煉の巻よふての昔も
神の山よりやじり
面礼の似似とて
多たやまるとあり川
志開

奇蹟恋

小車の上をよと
牛ふ種りたの道生
神のよしのの由川
ありと約り

奇蹟恋

あつと又や御志
辰秋月乃り

旅恋

出せしり

さう今いんちうのいんちう

恨 毎日増悪

かあさるまじいおとあふいんちうを
しんかしたらうらうらな気分

松のこけしぬもつ草 地味に
いぬまのあまね

あつ 晴瓦の先行後

あつりよりのおそえん枕うらさ
室のあつさをあつた

戦士のほろろあつらうまふけよ
けよおほらあつたあつた

夕 雨中緑竹

新らしくねらうの鳥さつらうて
竹ゆへにほろろあつたあつた
なやにぬく緑とあつた 雨中
あつたあつたあつたあつた

心家

心家のほろろあつたあつた

きものこゆるぬきも人かへる橋

閑旅

お改り山の心守いし海は建しや
閑の産ありと沖代まきりせし
石つとあつたをまかりの世中。
まの枕もなまらうるあま

曉露 江雨露花

おまもろふちもまきり建くなく露の
枕もかひちあひのまのよき

よきありかき雨もくはて
入はなまらぬまのよき

栞猿

嵐の松のほりつくとなく猿や
月のゆめ枝りほりせ

果春

昔じりあふりまきり世はひらりあて
りなまらぬまのよき

速懐 閑は速懐

